

地理A、地理B

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

地 理 A

1 前 文

共通テストは、大学（専門職大学、短期大学、専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている。

共通テストでは、平成21年告示学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が重視されている。地理の問題作成方針においても、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題を含めて検討すると示されている。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 地理的技能とその活用、日本の自然環境、防災に関して、地図や資料等から地理的諸事象に関する情報を読み取り、地図やGISと自然災害に関する知識を基に、自然環境や自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 ホモロサイン図法の世界地図から、地図上の緯線・経線、方位の表現方法を読み取り、地図表現の特徴を考察する問題。

問2 地理院地図と陰影起伏図について、等高線から標高や尾根・谷を読み取り、地形の起伏について判断する問題。

問3 昔の空中写真から土地利用などの情報を読み取り、現在の地理院地図と比較して地域の変化について判断する問題。

問4 夏季と冬季の気温、降水量を表現した主題図を読み取り、緯度や経度、季節風や地形、標高に関する知識を基に、気候とその季節変化の地域的特性について考察する良問。

問5 河川周辺の地形を示した模式図を読み取り、扇状地や河岸段丘などの地形に関する知識を基に、地形と発生しうる災害の危険性について考察する問題。

問6 火山災害に備えるために造られた施設の写真を読み取り、噴石、火砕流、溶岩流などの火山災害に関する知識を基に、噴石に関連する施設を判断する問題。

第2問 食文化への探究的な学習活動を通じて、地図や資料から読み取って得た情報を基に、各地域にみられる特色を地理的な見方や考え方を働かせて、考察する問題で構成されている。問題のテーマとして食器や調理器具などが用いられ、人間生活の様々な部分に文化が表れていることを考えさせる問題である。

問1 2つの年代のカロリー供給量の内訳を示した図を読み取り、各地域の自然環境や経済水準の知識を基に、経済発展に伴う食生活の変化を考察する良問。

- 問2 魚介類と香辛料、乳製品の年間供給量を示した表を読み取り、各国の経済水準や内陸国と海洋国、自然環境に関する知識を基に、食文化の違いを考察する問題。
- 問3 食文化の多様性とその背景に関する文を読み、食文化が伝播する地理的・時代的背景に関する知識を基に、食のグローバル化について考察する問題。
- 問4 食器のデザインと説明文を読み取り、イタリア、イラン、シンガポールの農産物、宗教などの知識を基に、写真と文の組合せを判断する良問。
- 問5 2つの年代のプラスチック素材の生産の分布図を読み取り、各国の経済発展と国際分業に関する知識を基に、プラスチック素材の産地の変化とその要因を考察する問題。
- 問6 授業後の探究的な学びについて、調査内容とその仮説の組合せを判断する良問。第2問を通じて、統一された題材で探究的に学習する姿勢が読み取れる。
- 第3問 ヨーロッパを事例地域として、多様な資料を読み取り、自然環境や生活・文化・産業に関する知識や理解を基に、地理的な見方や考え方を働かせて考察する問題で構成されている。
- 問1 自然環境の特徴について、景観写真と地形を示した図を照合し、自然環境の地域的特色を考察する問題。山脈、河川、平野などの自然環境の相違を踏まえ人々の生活・文化を考察する力も期待される。
- 問2 内陸水路の活用と分布に関する図を読み取り、大地形や気候、工業の立地などに関する知識を基に、ヨーロッパにおける水運について考察する問題。
- 問3 気候・地形・作物の栽培限界の相違などの観点から、農作物生産の地理的特徴について考察する問題。
- 問4 3つの国の到着旅行客数と旅行収入および旅行支出に関するグラフを読み取り、南部ヨーロッパでは観光収入が高位である点と各国の経済水準を踏まえて考察する良問。
- 問5 EU各国の加盟年度を示した図とGDPに関する図を比較しながら文章と照合し、東西ヨーロッパの経済水準の違いを踏まえ、経済格差や労働環境の違いについて考察させる問題。
- 問6 世界の4つの国家群について、各国家群における国々の結び付きの在り方を踏まえて、多角的に捉えて比較し、EU加盟国間の人々の交流の深さや域内貿易額の割合を手掛かりとして判断する問題。
- 第4問 地球的課題と世界の結び付きに関して、様々な観点から世界の現状を図表等から読み取り、知識や理解を基に、思考力・判断力を発揮して考察する問題で構成されている。
- 問1 出生率と死亡率の推移を示した2つのグラフの比較から、主に出生率に着目し、各地域の経済水準や人口変化の特徴等の知識を基に判断する問題。
- 問2 世界の栄養不足人口数や、穀物自給率、肥満人口の割合に関する高低の特徴を階級区分図から判断する問題。穀物生産量や栄養不足人口数については基本的な地理的知識があれば解けるが、肥満人口については人々の生活や経済活動の様子といった知識も要求される。
- 問3 アラル海の水域の変化を示した2つの年代の図を基に、水資源利用の経緯と、その結果による湖の面積縮小に関する課題について考察する問題。
- 問4 正しい支援とは何かを問う問題であり、安易な方法で問題を解決しようとしても、環境破壊を食い止めることはできないという側面について、発展途上国の環境破壊をむしろ促進するような誤った支援を例に挙げ考察させている。
- 問5 日本を含む4つの国の航空貨物輸送量に関する表を読み取り、発展途上国と先進国での航空機利用の差異や国土面積の広さ等を踏まえ総合的に考察する良問。
- 問6 それぞれの地域の石油に関する経済活動の現状について、西アジアでは石油の輸出量が多く輸入量は少ないことを踏まえ、他の地域との関連性から北アメリカを判断する問題。一

つの地域の特徴を手掛かりに、他の地域についても考察させる良問。

第5問 入間市を中心とした埼玉県南西部の地域調査に関して、地理院地図や統計などの多様な資料を読み取って地域の地理的特徴を概観し、自然環境と土地利用、景観、産業、物流についての地理的な見方や考え方を働かせて、見出された地域の課題について解決策を構想する、探究的な学習過程により構成されている。「地理B」との共通問題である。

問1 図から山地や丘陵等の地形を読み取り、地形の起伏の特徴を図から判断する技能等を基に、対象地域周辺の地形的特徴について考察する問題。

問2 入間市付近の雑木林について、社会や経済の変化に伴う雑木林の利用をめぐる背景とその保全について考察する問題。

問3 埼玉県での茶生産の特徴について資料を読み取り、経営体数や生産量、生産時期や生産体制について考察する問題。

問4 関東地方の高速道路網を示した地図と、物流施設の開設時期別の立地数を示した表から年代ごとの特徴を読み取り、環状道路建設の目的と大規模物流施設の立地の変化について考察する良問。

問5 入間市周辺の土地利用について、メッシュ図から森林や農地、建物用地の広がりの変化を読み取り、都市化の進展について考察する問題。

問6 大都市圏郊外の将来について、入間市で予想される課題とそれに対する自治体の対策を検討する問題。課題解決を志向した、更に深い学びへ向かう姿勢が示されている。

3 分量・程度

第1問 全体としてはやや平易な難易度の問題で構成されている。資料から読み取った情報や知識を基に、位置関係や因果関係等を論理的に考察する問題も見られるが、問2の地形図の読み取りや問3の場所の変化を読み取る問題は、易問であり問題を解くのに多くの時間がかからない。問題数や文字数、分量は適切である。

第2問 全体としては標準的な分量・難易度である。問2は料理の写真から国を判断し、さらにその国の食文化を問う問題であるが、問3や問5は図の読み取りやその背景を問う簡易な問題である。各設問の難易度には差があったものと推察される。

第3問 全体としては標準的な分量、難易度の問題で構成されている。大問全体が、ヨーロッパを事例として、自然環境や交通、農業、観光、EUと経済などの設問がバランスよく配置されている。EUを中心とした題材で適切な資料を基に論理的に考察することができる。

第4問 全体としては標準的な分量、難易度の問題で構成されている。問2のように複数の指標が世界全体で示された設問や、問5や問6のように一つの表の中に地域と項目の双方に空欄がある設問は解答するのに時間を要したと思われる。特に、問6は馴染みのない表のため、とまどった受験者が多かったと考えられる。設問数や文字数は適切である。

第5問 全体としては標準的な難易度である。問1は、武蔵野扇状地に関する問題であるが、地形が西高東低であるという情報を知っている東京や埼玉の受験者に有利だったと推察される。問3は、資料が充実していたが、機械導入と摘採り開始時期に因果関係がないことを判断できれば解ける問題であり、判断が容易であった。全体として、入間市の大都市近郊という特徴に着目した良問で構成されている。

4 表現・形式

第1問 地理的技能を用いて自然環境から地域の防災を考察する授業の流れが表現されている。

問2の立体鳥瞰図について、受験者により深く思考させるために、回転させ見る方角を指定するなどの工夫があると良い。問4は、気温の分布図に示した指標に関する説明が分かりづらく、誤解を生む要因にもなりかねないため、リード文中に示すなどの工夫が必要である。

第2問 食文化を中心とした生活・文化の多様性について、自然環境との関わり、多様性が生まれる社会的・経済的な背景等の多角的な視点から考察する学習場面が設定されている。問4は、食器のデザインから各国の生活・文化を考察させる興味深い問題であったが、デザインそのものの図示が見づらく、拡大して表示するなどの工夫があると受験者に親切である。

第3問 ヨーロッパを対象に自然環境や人々の暮らしの多様性について問う問題である。全体的に与えられた資料を丁寧に読み取ることが求められている。図や問題文が複数ページにまたがることなく見やすいがゆえに、問1の写真は少々細かい印象を受ける。

第4問 地球的課題と世界の結び付きに関する分野からバランスよく出題されており適切である。問3ではアラル海に関する図が示されているが、結果として地理的な知識・理解を問う問題となっているため、思考力や判断力を働かせて考察する学習の場面を設定できると良い。

第5問 地域調査を切り口として、事前調査や多様な資料を活用して、地域の魅力や特性について考察する場面を設定しており、その過程は実際の高等学校の授業等の展開事例に近いものであり、適切である。道路地図やメッシュ図等、多様な地図が提示され、地図活用の可能性について示唆されている。

5 ま と め（総括的な評価）

全体を通して、受験者が地理の授業で学習してきた基礎的・基本的な内容を基に出題されており、問題作成方針に則った出題である。また、学習を通して身に付けた知識・技能を問う問題や、地理的な見方や考え方を活用して考察させることにより思考力・判断力を問う問題、次の学びへ向けて探究しようとする力や問題の解決へ向けて構想する力が、オーソドックスな問いから初見の資料を活用して解答する問いまでバランスよく問われた。「地理A」で扱う内容が万遍なく出題され、中学校までの学習を基にしながら幅広い学習が求められる問題構成であった。第3問では一部に「地理A」の内容から踏み込んだ問題もあり、高等学校の学習内容により即した出題をお願いしたい。第2問や第5問では、生徒が自ら問いを立てて探究的に考察する場面設定や、様々な方法で地域を調べて考察する過程が設けられており、実際の授業場面や学習過程に沿った出題が重視されている。自然災害や地球的課題を扱う設問に関して、次年度以降の「地理総合・地理探究」を見据えた出題ともいえる。

難易度で見ると、基本的な程度を標準としながら、受験者にとって難問や易問も配置され、バランスの良い出題である。問題文や資料は著しい過多にならず適切な分量となっており、またページを戻って資料を参照することがないよう受験者にとって解きやすく配慮されている。図の判読に難がある箇所も見られるが、全体的には資料等が有効に示され、解答時の戸惑いも少なくなっている。一部資料を活用せずとも解答可能な問題も見られたため、より資料を適切に活用して解答する問題の作成をお願いしたい。

以上のことから、全体的に、形式・内容ともに、受験者の地理の学習で知識や技能、思考力が身に付いているかどうかを適切に評価できる問題がバランスよく出題されたと評価できる。

地 理 B

1 前 文

共通テストは、大学（専門職大学、短期大学、専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている。

共通テストでは、平成21年告示学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が重視されている。地理の問題作成方針においても、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題を含めて検討すると示されている。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 世界の自然環境と自然災害に関して、地図や模式図など多様な資料から情報を読み取り、地理的諸事象に関する知識を基に、位置や分布などに着目して、諸地域の地形や気候、自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 性質を異にするプレート境界で発生した地震の震源の深さ別分布について、プレート境界で地震が発生する原理の理解を基に考察する問題。

問2 インド洋と太平洋の同緯度の海域における1月と7月の風向と風速について、大気大循環の原理や、海陸分布の違いが風向や風速に与える影響の理解を基に考察する問題。

問3 日本における植生の垂直分布の模式図を読み取り、気温と標高・植生との関係についての知識を基に、日本の植生分布の多様性について考察する良問。

問4 図から、地形に関する地理的事象を読み取り、各地形の特徴とそれらが形成される時間・空間スケールの関係性を考察する問題。

問5 主題図から幾つかの災害に関する地理的事象を読み取り、自然環境に関する知識を基に、東南アジアと南アジアにおける災害ごとの頻度やその地域的な違いを考察する問題。

問6 地図とグラフから地理的事象を読み取り、堤防が決壊したことによる水位の変化について考察する問題。

第2問 持続可能な資源利用と産業の有り方について、図表や地図等から読み取り、資源や農業・工業の知識や理解を基に、現状と課題について探究する問題で構成されている。

問1 世界の工業出荷額上位20か国・地域を示した地図を読み取り、石油産油量、二酸化炭素排出量、農産物の生産量についての統計地図を考察する問題。

問2 アメリカ合衆国における石油の生産量、消費量、輸入量の推移を示したグラフを読み取り、変化の背景を、石油危機やシェール革命などの知識を基に考察する問題。

問3 日本、インド、オーストラリアの工業付加価値額の内訳を示したグラフを読み取り、3か国の工業の特徴と結び付けて考察する問題。

問4 世界における農産物の2国・地域間の輸出入量を示した流線図から果実類、牛肉、穀物に該当するものについて、各農産物の主産地や地域間の需給状況を想起して考察する良問。

問5 東京都における光化学スモッグの健康被害者数と注意報発令日数の推移に関する資料を読み取り、その被害の空間的な広がりや動向について考察する問題。

問6 世界の持続可能な資源利用や産業の有り方について、工業化と環境保全の両立を目指して、具体的な取組を考察する問題。

第3問 都市と人口、生活文化に関して、鳥瞰図や都府県間における年齢別人口移動の統計資料等、地域の現状や諸問題を探究するための多様な資料を読み取り、人口や都市に関する地理的事象について多面的・多角的に考察する設問で構成されている。

問1 新大陸のある都市における19世紀後半の様子が描かれた鳥瞰図を読み取り、立地と結び付けて都市の発展について考察する問題。

問2 ある県の幾つかの市町村における65歳以上人口の割合と、他市区町村への通勤率を示したグラフを読み取り、県庁所在都市からの距離に応じた各市町村の特徴を考察する問題。

問3 アメリカ合衆国シカゴ市における地区別のアフリカ系住民の割合と、アフリカ系住民の文化から誕生したブルースが演奏される飲食店の立地の変化を示した地図を読み取る問題。

問4 幾つかの国における外国籍人口を男女別に示した表を読み取り、移民として流入する人々の特徴に関する知識を基に判断する問題。

問5 東京都、大阪府、広島県の間で居住地を変えた人の数について、20～24歳と60～64歳の2つの年齢別で表示した図を読み取り、都市の階層性に関する知識を基に都府県間の人口移動の特徴を考察する良問。

問6 世界の幾つかの地域におけるキリスト教の宗派別人口について示したグラフを読み取り、各地域の総人口やキリスト教の伝播を想起しながら地域ごとの特徴を考察する問題。

第4問 南アメリカに関して、多様な資料を読み取り、地域に関する知識や理解を基に、思考力・判断力等を測る問題で構成されている。自然環境、産業、貿易等を中心として、地理的事象を多面的・多角的に問うている。

問1 南アメリカの標高分布図と雨温図から、地形や海流が気候に与える影響に関する知識を基に、同緯度の3地点における気候の違いを考察する問題。

問2 南アメリカの12か国における国土面積と人口、森林面積、日本への輸出総額のいずれかの指標について表したカルトグラムから、各国の気候的特徴や人口、日本との結びつきについて考察する良問。

問3 南アメリカにおけるコーヒー豆と大豆の作付面積の推移と国別生産量の上位3か国の割合を示したグラフを読み取り、二つの作物生産の動向について考察する問題。

問4 南アメリカの幾つかの国とアメリカ合衆国、EU、自国以外の南アメリカの国々との貿易による結びつきについて、模式図から読み取った特徴を基に考察する問題。

問5 南アメリカにおける原油、銅、ボーキサイト、リチウムの生産量が世界に占める割合と、生産量の増加率を示した表を読み取り、鉱産資源の産出動向について考察する問題。

問6 アルゼンチンとブラジルの首都の地図を示した地図を基に、都市成立の背景に関する知識を活用して、両国の首都の特徴を考察する問題。

第5問 （「地理A」と共通のため省略。）

3 分量・程度

第1問 全体的に分布図や模式図に表された自然環境や自然災害に関する諸事象について、知識の質やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問3は、日本における植生の垂直分布の模式図を的確に理解することが求められた。問6は、ある河川流域の

特定の地点で堤防が決壊した場合に、位置の異なる幾つかの地点で水位にどのような変化がみられるのかを考察する必要があるが、受験者がイメージしにくい内容であることもあり、やや難易度が高い。資料や文章量ともに適切である。

第2問 統計地図やグラフなどの資料に表された、持続可能な資源利用と産業の有り方に関する諸事象について、基本的な知識や思考力を問う、全体的にはやや易しい設問で構成されている。問4は、流線図から読み取った農産物の貿易に関する地理的事象に関して、農産物の主要な生産地、輸出国と輸入国の地理的關係など、既習事項を基に多面的に考察して判断することが求められた。問5は、経済活動に伴う「負の外部経済」である公害について、読み取った地理的事象を基に考察する設問であった。

第3問 鳥瞰図や地図、図表に表された、都市と生活文化に関する諸事象について、基本的な知識を基にした思考力を問う、全体的にはやや易しい設問で構成されている。問6は、各地域の人口分布、アフリカの宗教別人口、各地域のキリスト教の宗派別割合などの知識を基に多面的に考察する必要がある、難易度が高い。資料や設問数は適切である。

第4問 地図や図表に表されている、南アメリカにおける地理的事象とその動態について、基本的な知識や思考力を問う、標準的な難易度の設問で構成されている。問2は、カルトグラムからの確に地理的事象を読み取る技能を基に、気候や植生と人口分布の關係、日本との結びつきなど、既習事項を多面的に考察して判断することが求められた。問6は、ブラジルの首都が内陸部に建設された計画都市であるという個別知識の有無によって、解きやすさに差が生じたと考えられる。資料や設問数は適切である。

第5問 （「地理A」と共通のため省略。）

4 表現・形式

第1問 自然環境と自然災害に関する諸事象について、多様な図表が用いられており、初見の資料を読み取り、学んだ知識や概念を活用して多面的に考察する出題形式で適切である。問6は、河川水位の変化を示した図の特徴がつかみにくく、この事例を取り上げる意義が受験者には伝わりにくかったと推察される。資料から過去 of 自然災害の特質を捉え、災害に対する備えについての理解を問うことができるような出題の工夫が求められる。

第2問 持続可能な資源利用と産業の有り方をテーマに、様々な資料を用いて生徒が探究する場面設定であり、世界各国や日本における特徴や近年の変化、それに対する取組などについて学びを深めていくプロセスが示されており、適切である。ただし、問1は、世界の農産物の生産量などにおける単位が示されていないなど、データの性質が捉えにくいものもみられるため、注で各データの単位を示すなど、表現に工夫が必要である。

第3問 都市と人口、生活文化について、世界や日本各地の特徴を様々な種類の資料から考察する出題形式で適切である。問1は、新大陸のある都市における19世紀後半の鳥瞰図が用いられ、興味深いものの、やや見づらかったかも知れない。また、図と選択肢を見比べると容易に正答が判別できてしまうため、地図における地点選択形式とするなど、受験者の思考力を一層問うことができるような出題形式の工夫が求められる。

第4問 南アメリカ地域を対象として、この地域に位置する国々の地理的な特徴や、結びつきを様々な種類の資料から考察させる出題形式であり、適切である。問4は各国・地域間の輸出入総額に占める割合を示した矢印の差異が分かりにくく、判断に迷う受験者も多かったと考えられる。模式図の表現方法によって正答率に大きな影響が出ることをないように、本問で問いたい概念や地理的な見方や考え方を問うことのできる図の表現が求められる。

第5問 （「地理A」と共通のため省略。）

5 ま と め（総括的な評価）

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って、平成21年告示の学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を測定するための良問で構成されている。特に、高等学校教育で身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くための文章や統計資料、主題図といった様々な資料の読解力が試される試験となっている。

第2問と第5問で場面設定がなされている。特に第2問は、地理の授業で持続可能な資源利用と産業の有り方について探究する高校生が登場し、現状と課題を考え、多様な統計を調べて探究を振り返るといった探究のプロセスが示された問題となっている。第3問は、都市と人口に関する視点を主としながら、例えば問3のようなアフリカ系住民の地区別の割合と、ブルースが演奏される飲食店の立地の変化を示す統計地図を用いた生活文化に関する工夫した出題がみられるなど、全問題を通して高等学校の「地理B」で身に付けるべき見方や考え方を問う工夫がなされている。また、第5問の問6では、実施した地域調査を基に今後生じると予想される問題とそれを食い止めるための対策について考察する、探究の視点が意識された問題であった点も特筆したい。

全体的には適正な難易度であり、引き続き多くの問題で受験者にとって初見となる資料が付され、これらを着実に読み取り、多面的・多角的に考察することが求められたが、昨年度に比して大問ごとの解答に要する時間が均等化され、改善がみられた。

全体を通して、高等学校での学習内容を元にした思考力を問う問題や探究活動の過程を再現する問題が随所に見られ、高等学校における授業改善の指針となる試験である。